

＜あきしま・街づくり市民会議・なかがみ＞部会紹介

◆地域活動部会

自治連第5・6ブロックの各自治会と連携して活動。また、もちつき大会等の行事を通して、地域の皆様と横のつながりに努めています。

◆街並み部会

玉川児童遊園の遊歩道植栽整備活動。中神駅南口周辺の今後のまちづくり調査、研究。

◆芸能部会

毎年の「芸能祭」開催と親睦、及び慰問。

◆広報部会

機関紙ほどあかりの発行 ホームページを担当しています。その他、地域の活動、トピックスを取材して、情報発信をしています。

◆防犯防災部会

防犯パトロール活動、防災訓練、防犯講習会の開催、防犯防災・交通安全への協力・参加など。

◆国際交流部会

フレンドリーな街づくりを目指し、日々の生活に潤いを与えてくれる生涯教育としてのエッセイ、小論文の発表を毎月外国人を交えて実施。

◆活動支援部会

地域の高齢者などの居場所づくりとして、月1回サロン「あさひ楽笑」を開催しています。また、子どもたちとの交流事業なども行っています。

◆自然と親しむ部会+

昭島市を中心に、道路・川・自然、寺社・史跡・施設等を訪ね歩き、体力と知力を鍛えます。他に、俳句・落語・郷土史・写真等も学習。

新体制でスタート ～皆さんの住まいの自治会～

注・活動支援部会は現在、休止しています

自治連第5・第6ブロックの各自治会では、総会において新役員が選出され、新年度が始まりました。

ブロック長、自治会長を紹介します。(敬称略)

◇第5ブロック長	山口 晋	◇第6ブロック長	井ヶ田 博 (新任)
◇中神始自治会長	長谷川 英夫	◇六親自治会長	露木 博保
◇中神親和自治会長	原茂 豊広	◇朝日町住宅自治会長	井ヶ田 博 (新任)
◇中神東上自治会長	平島 誠	◇中神駅前親交自治会長	渡辺 健二 (新任)
◇交友自治会長	加藤 辰夫		

コロナウィルス感染症予防対策のため、いろいろな活動ができない現状にあり、地域のみなさまにも悩ましい状況が続いています。

イベント、行事の実施は難しい中、地域の安全・安心を守り、人々の絆を育むという自治会の役目は変わっていません。

新しい役員の方々による明るく元気な活動を期待するとともに、この街に住む皆さんも応援をし、「明るい街づくり」に協力していきましょう。



戦国時代、生き残りをかけた石川土佐の守 (昭島市の知られざる歴史探訪)

室町時代中期～末期、武蔵の国の一部、現在の八王子と西多摩地区を統治していたのが、室町幕府 関東管領の守護、滝山城主 大石定久でした。大石氏には、木曾 源義仲の末裔という文献が残されています。大石定久は、1546年、北条氏の軍門に下り、わずか6歳～8歳の北条氏照を養子として、滝山城主に迎えました。

そのような時代背景の中で、拝島・大神の領地を管理運営(地頭)していたのが地方豪族で現在の大神地区に拠点があった石川土佐の守(石川氏)でした。言い伝えによると、石川土佐の守には、眼病を患う1人娘 おねい がいました。

当時、辻堂に安置されていた大日如来に「娘の眼病を治して頂けたら、八坊を建立いたします。」と、願をかけました。

その後、おねいの眼病はたちまち良くなったと伝えられています。そして、その約束として、拝島に八つの寺を建立しました。これを大日八坊といいます。しかし、この建立計画には、もう一つの理由がありました。

当時全盛を誇る滝山城主、北条氏照は、青梅の三田氏を滅ぼしました。(1559年)石川氏は、三田氏と親族関係にあり、北条氏に謀反の意思がないことを証明しなければなりません。そこで滝山城の鬼門除けを大儀名分にかかげて、親族一門の財を投じて、大日八坊を建立したのです。それにも関わらず北条の家臣として石川氏の評価は低く、それが返って北条氏滅亡後に豊臣秀吉 徳川家康のおとがめを受けず、武士をすて、郷土として石川氏は、生き延びることができたのです。

大日八坊

(1) 拝島大師 本願院 (2) 円福寺 (3) 大日明王院 (4) 普明寺
上記の寺院は現在も存在する。

(5) 地蔵寺 (6) 蓮住寺 (7) 密乗坊 (8) 竜泉寺は存在しません。

注・大日堂はご本尊を安置する御堂ですから、大日八坊ではありません。

広報誌 / 取材

参考文献 (昭島郷土史・八王子郷土史・青梅中世城館跡)

拝島町
大日堂 階段下の脇に
ある、眼病が治癒した
と言い伝えのある
おねいの井戸

